

<b>Title</b>	開会挨拶 他（悲嘆と信仰）
<b>Author(s)</b>	平山, 正実 / 挨拶 藤掛, 明 / 司会
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所, No.34, 2006.2 : 102-103
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=4291">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=4291</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

カウンセリング研究シンポジウム

## 悲嘆と信仰

発題・パネリスト

関 正 勝

鵜 沼 裕 子

平 山 正 実

司 会

藤 掛 明

司会 時間が参りましたので、聖学院大学シンポジウム

「悲嘆と信仰」を始めさせていただきます。初めに、聖

学院大学総合研究所カウンセリング研究センター、セン

ター長の平山正実から主催者側あいさつをさせていただきます

きます。お願いします。

## 開会挨拶

平 山 正 実

平山でございます。今日はお昼までの雨にもかかわらずおいでくださいます。ありがとうございます。私た

ちはこれまで家族の問題、人間関係の問題などをめぐってシンポジウムを開催してまいりました。今年は少し趣を変えまして、「悲嘆と信仰」というテーマを取り上げました。このようにたくさんの方がお見えいただいたことを、心から感謝いたします。

皆様におくばりしたお手元のプリントをごらんください。悲嘆の「悲」というのは「心に非<sup>あら</sup>ず」という文字ですが、伝統的にこの漢字は非常に深い意味があるように思います。本来人間というものは、自然の気持ちとして喜ぶことを好むものであると思います。心はそういう方向に傾いていきがちです。そして悲しいこと、寂しいこと、つらいこと、そういうことは、できれば避けたいということが人間の心情としてあると思います。

しかし、ひとたび信仰という点から考えますと、悲しみという問題がキリスト教の伝統の中では非常に大きな意味を持ってきます。神様のメッセージは、喜びよりも悲しみの中に多く含まれています。「隠された神」という言葉がありますけれども、悲しみという、あまり人が向き合いたくない、できれば避けたいことの中に真実が

隠されている、宝が隠されている。それを私たちは探り当てなければいけない。悲しみの中における真実というものを探っていく必要がある。そのように考え、このシンポジウムを企画いたしました。

皆様も日々の営みの中で、さまざまな悲しい出来事に直面されるかもしれません。しかし、その中にどういう宝を発見するのか、その中に含まれているメッセージとは何かということを、今日御一緒に考えてまいりたいと思います。それでは、これからシンポジウム「悲嘆と信仰」を始めます。

司会 どうもありがとうございます。ごあいさつがおくれましたが、私は今日の司会を担当いたします藤掛と申します。聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センターの講師をしております。

初めに、本日の時間の進行について確認させていただきます。これから三人の先生方に発題をしていただきます。関先生、鶴沼先生、平山先生の順でお願いしたいと

思います。その後ですが、休憩を入れまして後半はパネ  
ル・ディスカッションということで、シンポジスト同  
士、あるいは会場の方々からのご質問にシンポジストが  
答えるという形で進行させていただきたいと思っています。  
お手元に質問票という小さな紙がありますが、これに記  
入をして係の者に渡していただきたいと思います。

このシンポジウムは今年で三年目を迎えますが、毎回  
たくさんの方々から質問票をいただきまして、そのほ  
んの一部しか扱えなかったということがありました。そ  
こで今回は初めての試みですが、シンポジストを従来の  
四名から三名に減らしまして、その分皆様からの質問を  
より多く受けたいと思っております。

それでは発題に先立ちまして、今日ご出席いただいて  
おります先生方の簡単な紹介を司会者からさせていただきます。  
最初に、ご発題いただきます関正勝先生ですが、  
現在、聖公会神学院の校長をなさっております。また  
長く立教大学で教壇に立つておられまして、立教大学  
名誉教授でもあられます。また社会福祉法人新生会及  
び立教学院理事もなさっております。主な著書に『生

命倫理』『生命科学とキリスト教』『いのちの倫理を考え  
る 生命の始まりから終わりまで』といったご著書があ  
ります。

二人目の発題者になります鶴沼裕子先生ですが、山梨  
大学、青山学院大学、東京神学大学の非常勤講師などを  
経まして、聖学院大学政治経済学部、人文学部教授等を  
歴任されておられます。本年度より聖学院大学大学院特  
任教授、及び聖学院大学総合研究所特任教授をなさつ  
ておられます。主な著書に『史料による日本キリスト教  
史』『近代日本キリスト者の信仰と倫理』など、ご専門  
の日本キリスト教倫理思想のご本があります。

三人目は平山正実先生、センター長で先ほどごあいさ  
つをいただきました。東洋英和女学院人間科学部教授を  
なさっております。また北千住旭クリニックの院長も  
なさっております。二〇〇二年一〇月より聖学院大学  
総合研究所客員教授として、このカウンセリング研究セ  
ンターを立ち上げられておられます。主な著書に『心の  
病の治療法が判る本』『グリーフケアの行動科学』『死生  
学がわかる』『いのちの哲学』などたくさんのご著書が

あります。

それでは、最初に関先生からご発言をいただきたいと思えます。先生、よろしくお願いいたします。